

鬼北町立広見中学校

道徳通信

道徳主任 酒井 智有

NO. 84

令和8年7月17日発行

よりよく生きる

Ⅰ 学期終了！！！！

Ⅰ学期が終了しました。Ⅰ学期は、「よりよく生きるとはどのようなことか」を大きなテーマとして、自分自身や友達、家族、地域社会との関わりについて考えてきました。授業では、教材を読んで感じたことをもとに、自分の考えをまとめたり、友達と意見を交流したりしながら、多様な価値観に触れる学習を進めました。

道徳は、一つだけの正解があるわけではありません。同じ教材を読んでも、心に残る場面や考え方は人それぞれです。だからこそ、「自分はなぜそう考えたのか」「相手はどのような思いでその意見を伝えたのか」を大切にしながら、互いの考えを認め合うことを意識して授業を行ってきました。話し合いの中では、「そんな考え方もあるのか」「自分とは違う視点に気付いた」といった声が聞かれ、生徒たちは対話を通して考えを深めることができました。

また、Ⅰ学期には、思いやりや友情・信頼、礼儀、責任、よりよい学校生活など、さまざまな価値について考えました。身近な出来事と結び付けながら考えることで、「普段の生活でも相手の立場を考えたい」「自分の言動を振り返るきっかけになった」「勇気を出して行動することの大切さを感じた」など、自分自身の生活につなげようとする姿が多く見られました。

授業では、友達の意見を最後まで丁寧に聞き、うなずいたり質問したりする姿も印象的でした。考えが異なっても意見を否定せず、「なるほど」「その考えも分かる」と受け止めながら対話する様子からは、安心して学び合える学級の雰囲気が育っていると感じました。こうした経験は、道徳の授業だけでなく、日常生活や学校行事、部活動など、さまざまな場面で生かされていくことと思います。

道徳で大切にしているのは、授業の中だけで学びを終わらせるのではなく、日々の生活の中で実践につなげていくことです。相手を思いやる言葉を掛けること、自分の役割に責任を持って取り組むこと、困っている人に気付いて行動することなど、小さな積み重ねがよりよい学校生活や社会につながります。生徒たちには、これからも学んだことを意識しながら、自分らしい判断や行動ができるよう成長してほしいと願っています。

夏休みは、家族や地域の方々と過ごす時間が増える貴重な機会です。学校では経験できないさまざまな体験や人との出会いを通して、多くのことを感じ、考え、自分自身を見つめ直す時間にしてほしいと思います。また、家庭での会話の中でも、「こんなことがあったらどうする？」「相手はどんな気持ちだったと思う？」など、日常の出来事を話題にさせていただくことで、道徳での学びが更に深まることと思います。

2学期も、生徒一人ひとりが自分の考えを表現し、多様な価値観に触れながら、自分自身の生き方について考えを深められる授業づくりに努めていきます。今後とも、本校の教育活動への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

